

# Avishai Cohen "Triveni"

## [プロフィール]

### Avishai Cohen アビシャイ・コーエン：Trumpet

1978年、イスラエルのテルアビブ生まれ。

幼い頃より音楽に興味を持ち、10代で「ヤング・イスラエルフィルハーモニー管弦楽団」のメンバーとなり巨匠Zubin MehtaやKurt Masurらのもので初のソロを演奏。

ジャズの演奏にふれる機会が少なかった彼は、ルイ・アームストロングやマイルス・デイビス、ジョン・コルトレーンといったミュージシャン達のレコードから多くを学び“自分が知り得なかった言語(音楽)での話し方を学んだんだ”と言う。

14歳の頃、イスラエルに来たサクソ奏者アーニー・ローレンスと一緒にセッションし始めた。当時の彼にとってアーニーこそが唯一の指導者であった。また、イスラエルには、古典的なイスラエル音楽の持つ叙情豊かな感覚という、彼の根本にある音楽的な発展に重要なものがあった。

18歳でパークリー音楽大学の全額奨学金を獲得してイスラエルを離れる。

1997年にセロニアス・モンク・コンペで3位に入賞。2002年に初のリーダー作「The Trumpet Player」をリリースし、硬派なトランペット・トリオで様々な色彩を放つかのような音色が話題となり絶賛される。

2004年から2010年までの間にはイスラエル文化優秀財団に選出される。

クラリネット奏者の姉:Anat Cohen、ソプラノサクソ奏者の兄:Yuval Cohenと共にファミリーバンド“Cohens”等、多岐にわたる活動の他、数々のリーダーアルバムをリリースを経て、2010年には「Introducing Triveni」をリリース。TriveniのメンバーであるベーシストOmer AvitalとドラマーのNasheet Waitsと共に2011年のニューポートJazzフェスティバルにてヘッドラインの演奏をつとめた。その後、第2集として2012年には自身の6枚目のリーダーアルバムとなる「Triveni II」をリリースする。同年、ダウンビート誌：批評家世論調査ではライジングスターに選出され、「多岐にわたるJazzの旋律を自由に放ち、リーダーとしてはもちろんのことながら、サイドマンとしても国際的な活躍は目覚ましく、多彩なサウンドと探究心、かつてない創造性を持つ音楽家として名声を獲得している」と評価されている。ニューヨークタイムズ誌には「モダンリズムのセンスが豊かな、自身の主張をはっきり持ち合わせる洗練されたトランペッターである」と記載され、その他各誌からも賞賛を受ける。

「音楽は製品ではなく、プロセスである」と言う彼は、講師としてイタリアのシエナ・ジャズでコースを持ち、また、イスラエル、バルセロナ、パークリー(ボストン)とウィニペグ(カナダ)にてマスタークラスを指導している。

### Tal Mashiach タル・マシアハ：bass

1993年イスラエルの北部のハラシム村出身。

11歳でクラシックギターを習い始め、エルサレム音楽アカデミーのクラシックギター部門国内コンクール第一位

(2011年)など数々の賞を受賞。また優れた若い才能に授与されるアメリカ=イスラエル文化財団の奨学金も獲得した。

2011年兵役に就き、軍の“秀でた音楽家育成コース”に所属、その際にクラシック、ジャズ両分野のダブルベースを学び始める。

2012年~2014年にテルアビブにあるイスラエル音楽学校ジャズ科に奨学金を得て学ぶ。現在はNYのニュースクール大学のジャズ科に満額の奨学金を得て在籍中。イスラエルでは、ダニエル・ザミール、ユヴァル・コーエン、アモス・ホフマン、アヴィシャイ・コーエンなど著名な先輩と多数共演。

タル・マシアハは様々な楽器を弾きこなすミュージシャン、作曲家で、その両方の才能をフルに活かし、目下イスラエルのミュージックシーンを牽引する若手代表の一人。

## Jeff Ballard ジェフ・バラード：drums

1963年、カリフォルニア州のサンタクルーズ生まれ。

幼少期に父親が演奏していた ジャズやボサノバ等の音楽を聴きながら育ち、エド・シグペンがスネアの上で鳴らすブラシの音とスピード感をこよなく愛していた。

その後、コミュニティカレッジで音楽理論を学び、演奏活動をスタートさせる。

活動を通して、音楽のジャンルや状況において、自身がドラマーとして満たすべきニーズがあることを実感する。後に「挑戦こそが、それぞれの音楽における特定のニーズを発見できる探索作業であり、それらを発見出来た時の喜びは素晴らしい」と述べている。

サンフランシスコ周辺に拠点を置き演奏していた頃にモダンJazzを取り込んでいき、トニー・ウィリアムスがマイルスと演奏しているのを聴いた時には、これまでの自分の奏法とは全く異なる演奏法で演奏し、ジョン・コルトレーンやエルビン・ジョーンズ、オーネット・コールマン等から多大な影響を受ける。

25歳の時に、Ray Charlesのバンドに参加。毎年8ヶ月にも渡るツアーを行う。

よく同じ楽曲を同じアレンジで毎晩のように演奏したが、レイは、まるでそれを初めて演奏しているかの様に、私達に感じさせる事が出来る人物だった。Jeffはレイが何処でどんなグループを求めているのかを学ぶため、彼の足をいつも注視し、そこから多くを学び、後に「とても偉大な学校だった」と話している。

3年後、Kurt Rosenwinkel, Mark Turner, Brad Mehldau, Avishai Cohen, Guillermo Klein, Larry Grenadier, Ben Allisonといった、伝統的な音楽を彼ら独自の解釈や手法で鮮やかに描き出せる音楽家達と出会い、ニューヨークへと拠点を移す。

そこで、影響力のある広大なパレットから、より個人的な性質を描き出すような演奏をスタートさせ、アルゼンチンや中東のリズムからのアプローチ、ダンサーの靴のスタッカート音、パーカッションの手首に着けられた鈴の装飾音、感じたものをドラムへ音楽的に収めて独自の音を合成するような探索作業に取り組んでいた。

また、Eddie Harris, Bobby Hutcherson, Buddy Montgomery, Lou Donaldson, Mike Stern, そして Danilo Perezらと演奏やツアーを行う。

1999年にチック・コリアのバンドに参加。今でも、様々なプロジェクトを継続している。

近年では、Brad MehldauトリオやJoshua Redmanのエレクトリックバンド、さらに自信が共同リーダーを勤めるMark Turner と Larry Grenadierとのバンド"FLY"など精力的に活動を展開している。

2014年、初のリーダー作といえるJeff Ballard Trioで「Time's Tales」をリリースし、各メディアから好評を得ている。の演奏は、Jazzタイムズ誌から「今のJazzで最もエキサイティングなリズムセクションである」と評された。2009年には、このトリオメンバーにSax奏者のLogan Richardsonを加えて、Nasheet自身の初のリーダーアルバムとなる「Equality」を発表し各方面より称賛を得る。

Orrin Evans、Eric Revis、そしてNasheet Wait が中核となって結成されたバンドTARBABYでは、2010年に「The End Of Fear」をリリース。美しさと艶を兼ね備えたホーンセクション、リズムの切れ味も鋭く、余裕を感じさせる高密度な音色で魅了する作品となっている。2013年には、同バンドに、Ambrose Akinmusire を迎えて「The Ballad of Sam Langford」を発表。この他にも、共同リーダーとしてのバンド"3rd EYE"を2008年より立ち上げて、積極的に活動を展開。

世界中をレコーディングやツアーで飛び回る傍らで、後進への指導にも取り組んでおり、常に創造的な方向、そして音楽における自身の役割についての探求に身を捧げている。

これまでの自身の音楽家としてのキャリアにおいては、エラ・フィッツジェラルド、スティービー・ワンダー、マーヴィン・ゲイ、ソニー・ロリンズ、リー・モーガン、マックス・ローチ、セシル・テイラー、マッコイ・タイナー、および無数の伝説的なアーティスト達と共演を果たしている。